

MBAクリティカルシンキング

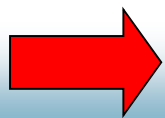
2011年3月9日発表 DCチーム



クリティカル・シンキングとは

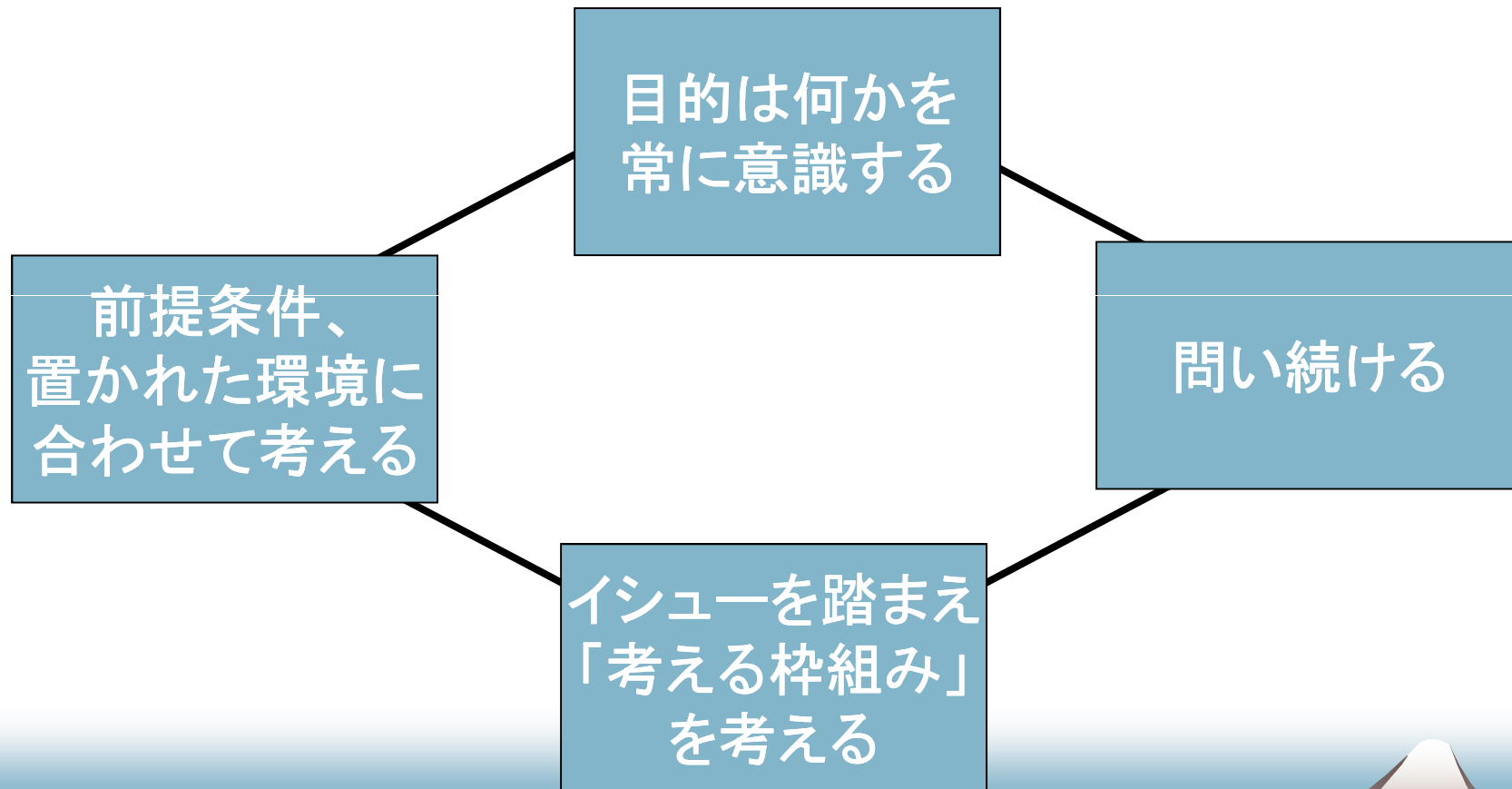
健全な批判精神を持った客観的な思考

- ・問題解決や意思決定の降下・効率が増す
- ・それまでに出来なかった斬新な発想ができる
- ・それまで見落とされていた機会や脅威に気づく
- ・相手の言いたいことやその前提を的確に理解できる
 - ・会議や議論を効率的に進め、
集団としてよりよい意思決定をする
- ・説得や交渉、部下のコーチング等が上手く出来る



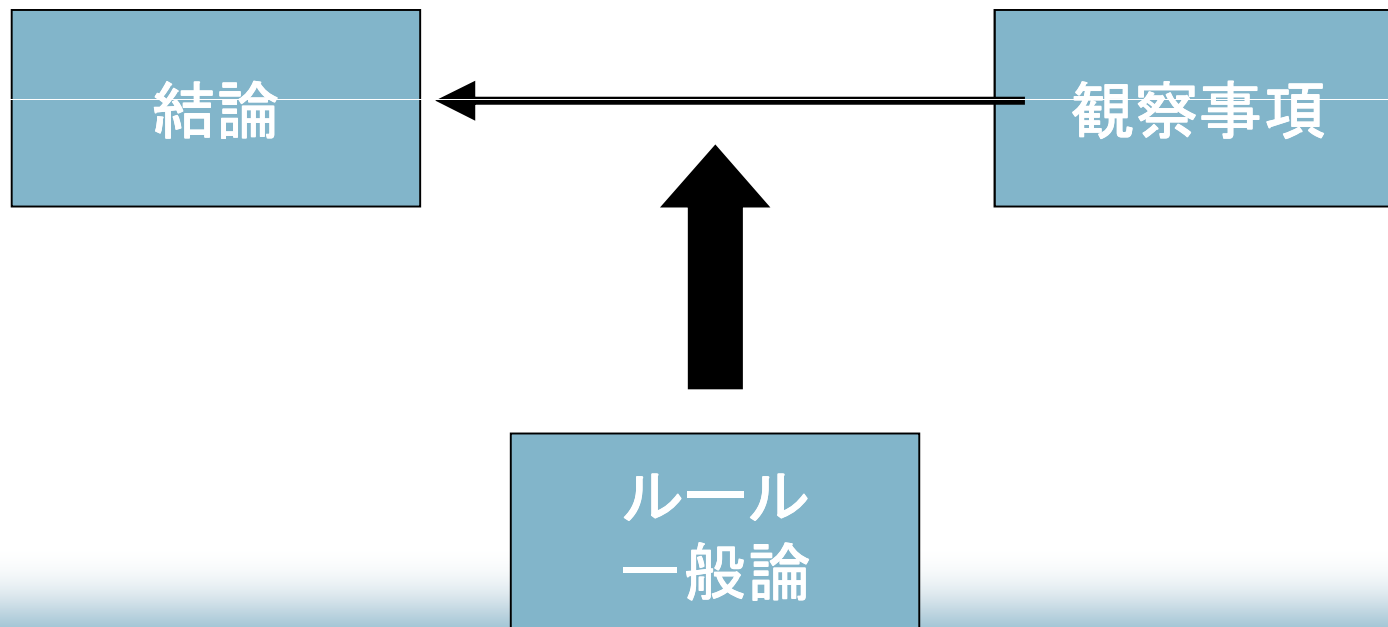
ビジネスで**チャンス**をつかむきっかけに！

4つの基本姿勢



演繹法(deduction)

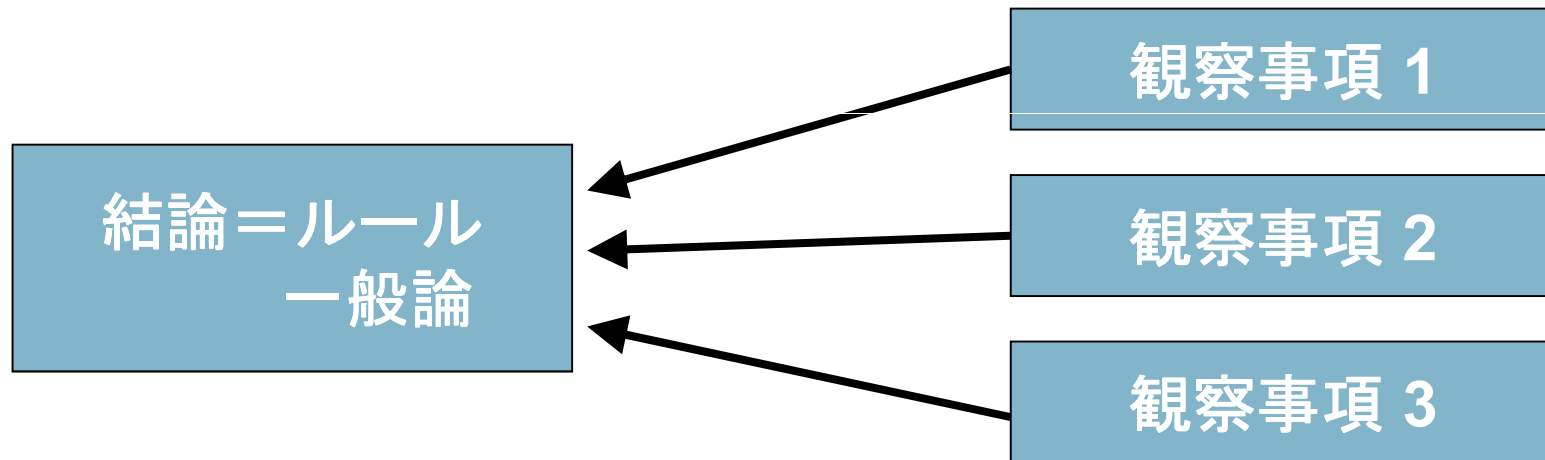
2つの情報を関連付けて、
そこから結論を必然的に導き出す思考法



図：MBAクリティカル・シンキング(グロービス・マネジメント・インスティテュート著) p.p.30より引用

帰納法(induction)

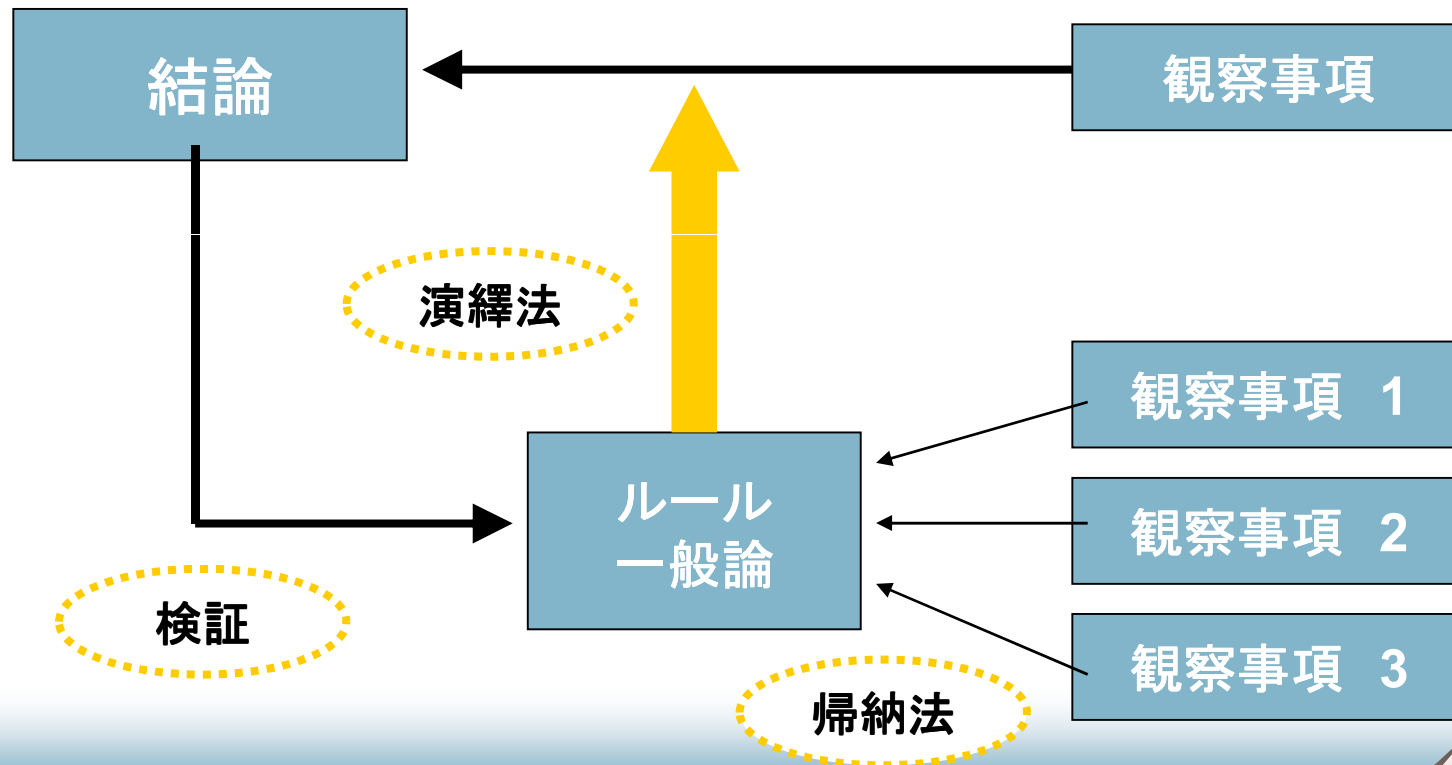
観察されるいくつかの事象の共通点に着目し、
無理なく成立し得る結論を想像して導き出す思考方法



⋮

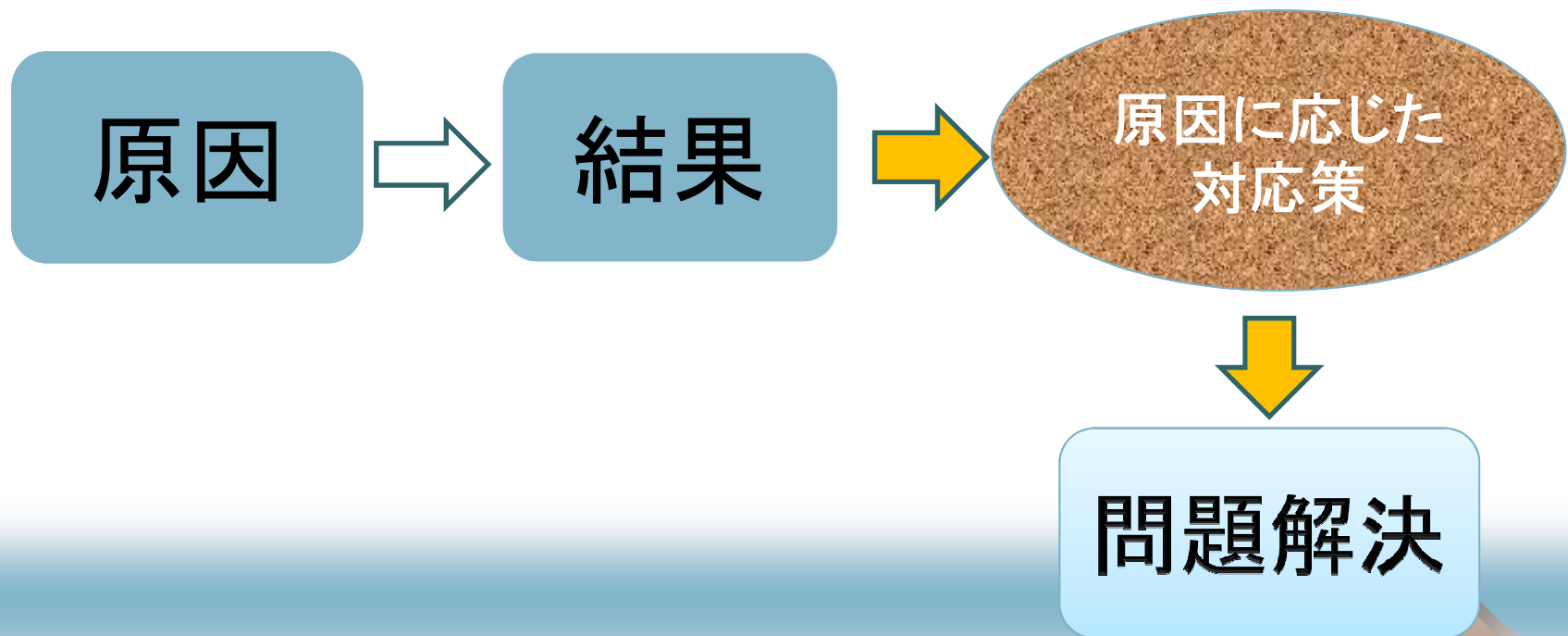
演繹法と帰納法の関係

流れが逆の思考方法であり、互いを補完し合う。



第2章 因果関係

- ◆ 「因果関係の把握」は「問題解決」において重要な思考技術

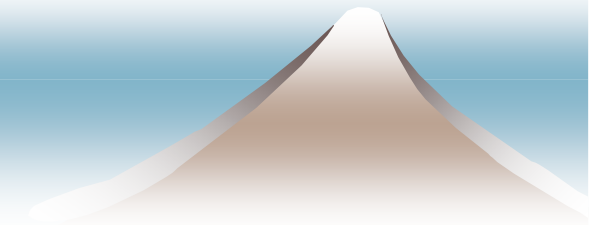


因果関係の定義

『原因と結果のつながり』

因果関係の条件

- ① 時間的順序が正しいこと
- ② 相関関係が存在すること
- ③ 第3因子が存在しないこと

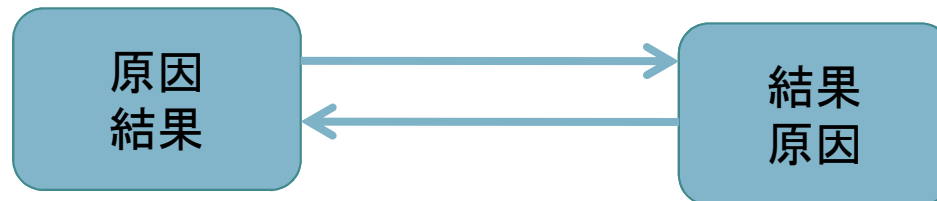


因果関係のパターン

① 単純な因果関係



② にわとり—たまごの因果関係



③ 複雑な因果関係

①と②が複雑に入り組んだ因果関係

第三章 解く技術

『解く』



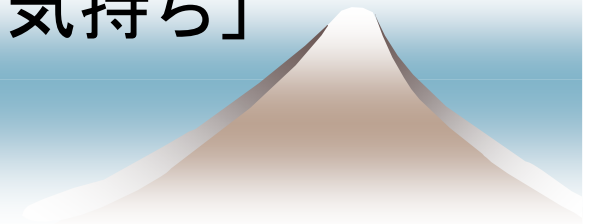
「頭の中に地図を作る」

※やっつけてしまいがちなミス⇒決め打ち



「知識不足」

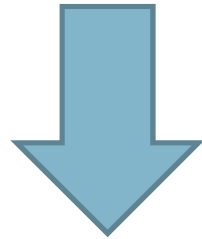
「早く結論にたどり着きたい気持ち」



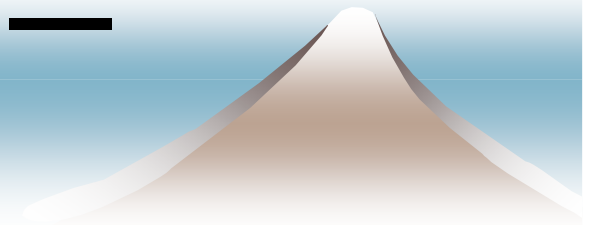
『解く』手段とは？

基礎 MECE (ミツシー)

 応用 フレームワーク



発展 ロジックツリー

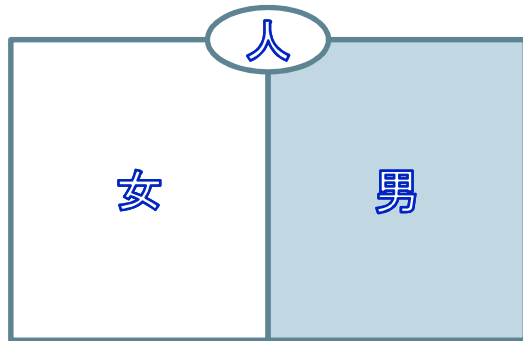


基礎①MECE

事象全体を
「モレなくダブリなく」

区別する方法

MECEな例



ダブリのある例



漏れのある例

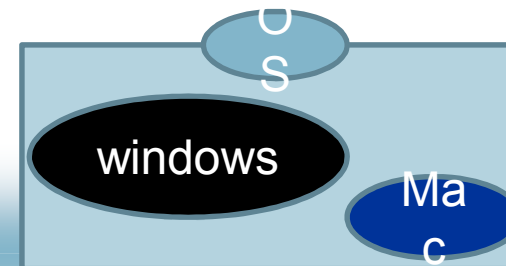
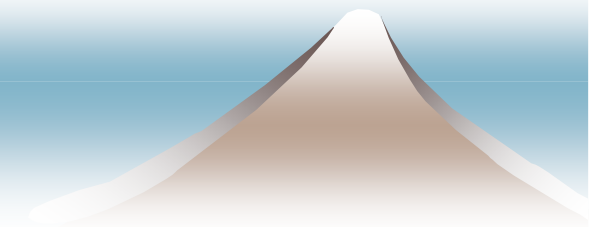


図 HP『ロジカルシンキング情報館』を参考

ポイント ①全体を定義する ②違う切り口を混ぜない

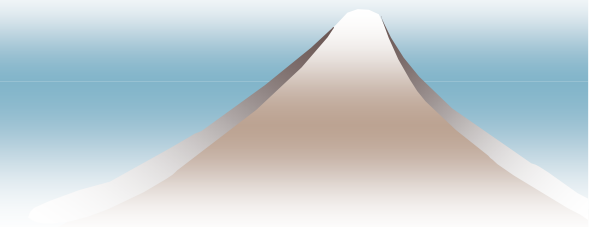
練習問題①

企業の『資金調達方法』を
漏れなく、ダブリなく区分けせよ！



答え

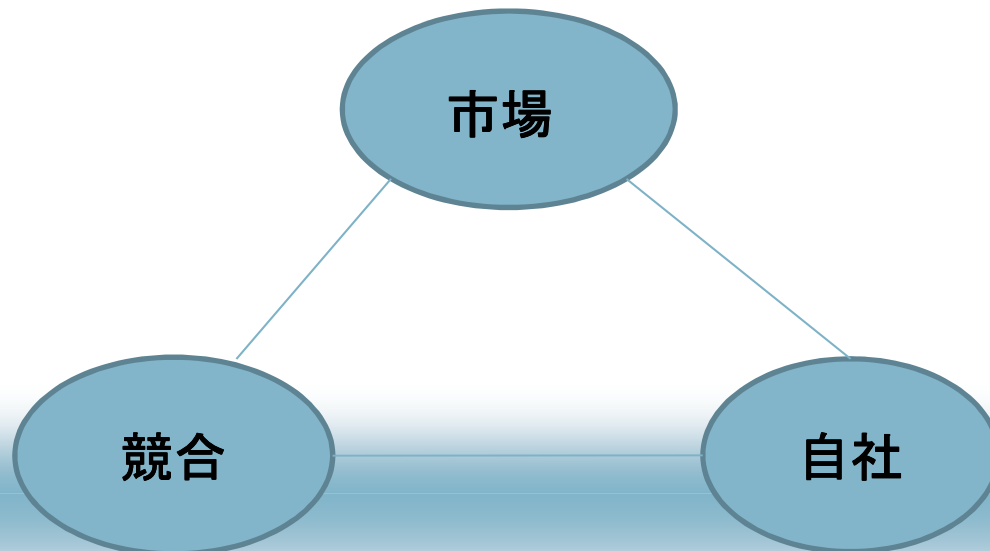
負債による調達（銀行借入,etc...）
株主資本による調達（株式発行,etc...）



応用②フレームワーク

- ・既存のMECEのこと

→素早く効率的に問題解決ができ、
相手にも説明しやすい



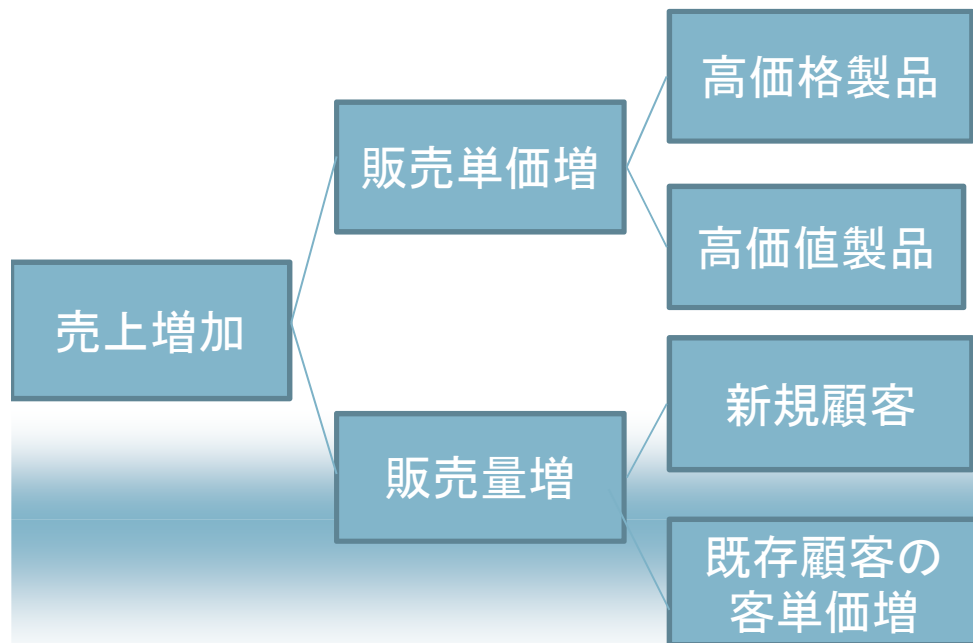
例 3C分析

図：MBAクリティカル・シンキング(グロービス・マネジメント・インスティテュート著) p.p.117を参考

発展③ロジックツリー

MECEを意識して、上位概念から下位概念に論理的に分解するもの

→全体を意識しつつ、細部をとらえることが可能



注意点 ①適切なテーマ設定を行う

②複数の切り口を考える

→広い視野で考える

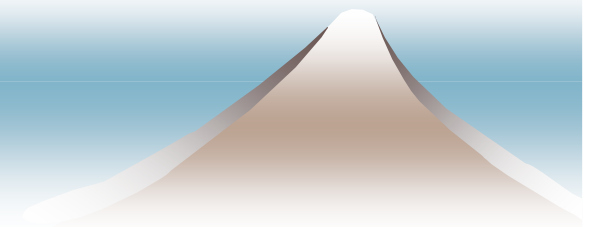
③アウトプットからインプットを考える

→結果から原因を考え、

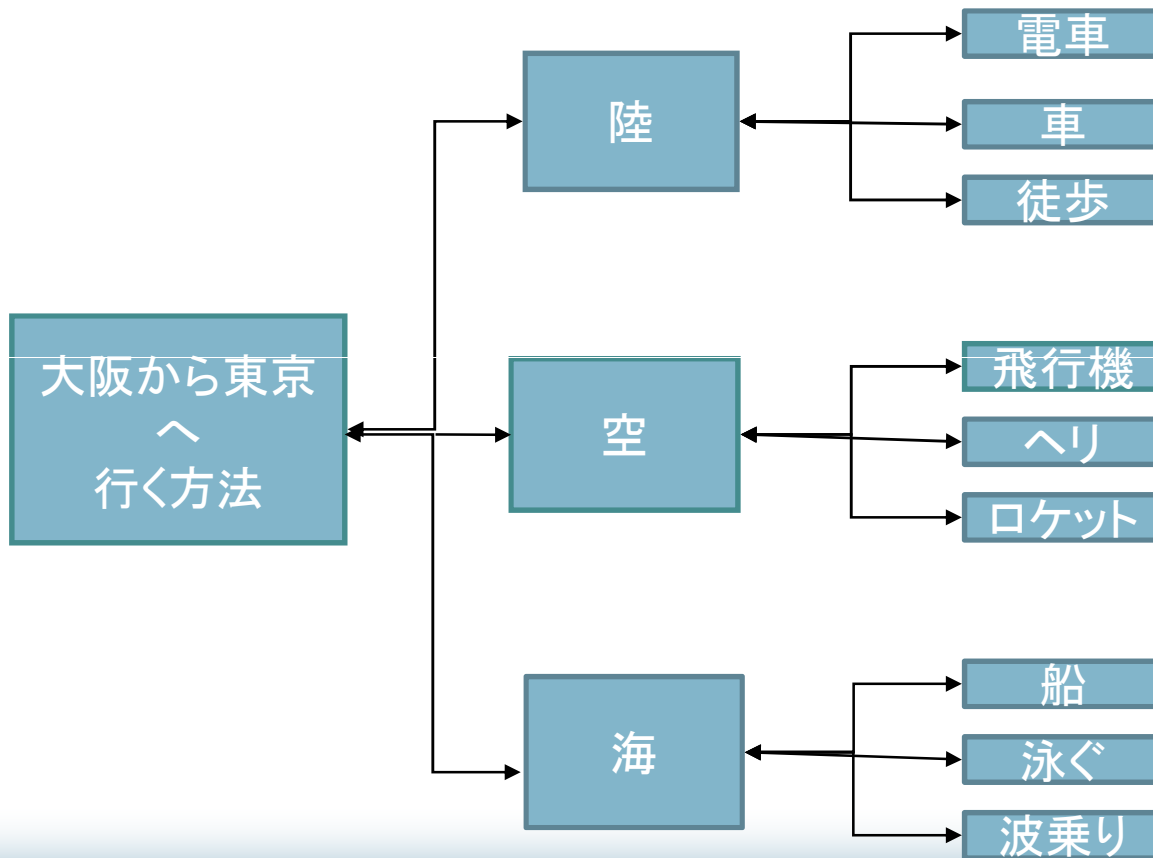
その関係性を考える

練習問題②

「大阪から東京に行く方法」を
ロジックツリーで示せ！



答え

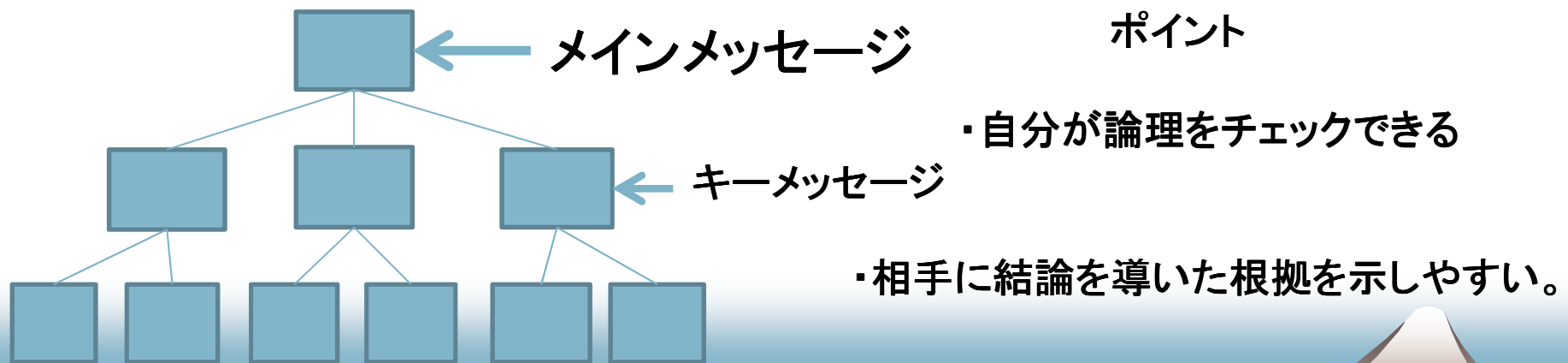


参考HP 『N's spirit ロジックツリーとは』

第四章 論理の構造化

構造化の方法

➡ ピラミッドストラクチャー



図：MBAクリティカル・シンキング(グロービス・マネジメント・インスティテュート著) p.p.153を参考

方法

論理をピラミッド型に構造化する4つのステップ

第1ステップ

- イシューを特定する。

第2ステップ

- 論理の枠組みを考え、方法をグルーピングする。

第3ステップ

- so what?を問いかけ、帰納・演繹に裏打ちされたメッセージを抽出する。

第4ステップ

- why?ture?で論理をチェックする。

図：MBAクリティカル・シンキング(グロービス・マネジメント・インスティテュート著) p.p.156を参考